

令和3年度 産山学園共通実践事項+2

- (1)単元のゴールの姿(単元デザイン)
 - (2)導入 **う** (問いやつぶやきを引き出している・子供の言葉でめあてを立てている)
 - (3)展開 **ふ**・**や** (積極的なファシリテート・思考ツールの活用)
 - (4)終末 **ま** (子供の言葉を生かしたまとめ・自らの学びや自己の変容がわかる振り返り)
- *効果的な場面で目的に応じたICT機器の活用
*学習過程が分かるように整理された板書の工夫

校内研通信

No. 7

7月21日(水)

文責: 富永

研究授業中研3rd (図工)

7月14日(水) 5年生 単元名「形が動く、絵が動く」 授業者: 東先生

<校内研の視点での分析>

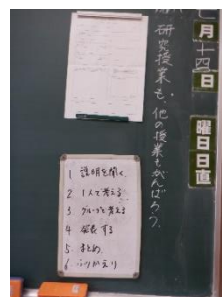
○仮説1 について

自作のアニメーションで子どもを引きつけ、単元のゴールをイメージさせたことで、主体的に学習に取り組む姿があった。また、子どもの発言に対し、肯定的な声かけや自分の言葉で書いたりまとめたりする時間を設定されたことで、より意欲をもって活動に取り組むことができていた。

○仮説2 について

様々なアイデアを提示されたことで、児童の中での完成イメージがわき、自分の考えを表現する姿へとつながっていた。また、スカイメニュークラスの活用により、視覚的に訴えたり、思考のスタートラインを合わせたりと、考えを深めやすいようにされていた。

* UD の視点からの本時の流れがわかるホワイトボードの活用もあった。

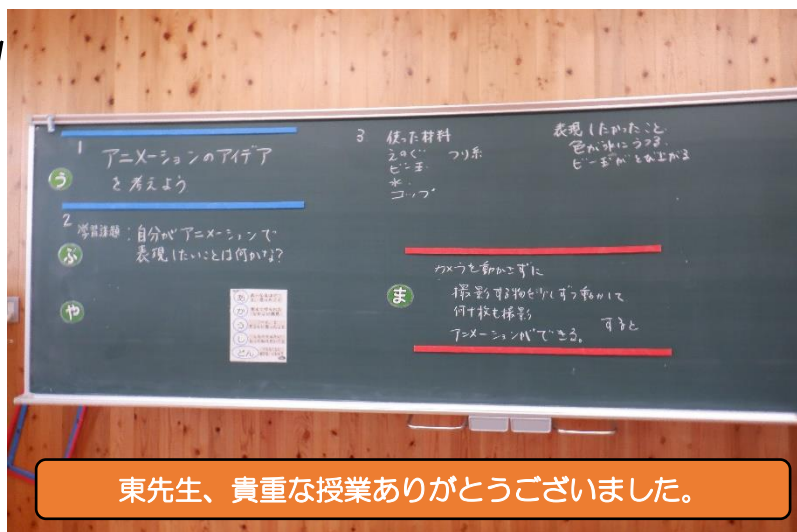


<まとめ>

今回の授業研から、「本物」に出会うことや子ども側から「楽しい」学びを考えていくことの重要性をより実感できたのではないのでしょうか。様々な授業の中で、どれだけ子どもたちが「本物」に触れているのでしょうか。なかなか、そういった機会は少ないように思います。だからこそ、それぞれの専門分野の知識を発揮されて、子どもたちに「本物」と出会わせることは、学び続けるうえで大変有意義なことであると思います。そうすることで、わくわくする姿ややってみようと思う姿にも繋がると思います。そのような、子どもたちにとって知的好奇心をかき立てるような「楽しい」授業をつくっていったら素敵ですね。

【自評】

中学校の技術科、家庭科の授業はマンネリ化するので、初めて小学生、初めて図工の授業にチャレンジしてみました。授業は、形だけ校内研修の様式に合わせたものになってしまい、思うように指導できませんでした。ショックでした。また、授業の導入で使うデータをPC上に保存していましたが、それを読み出すことができず、急遽、別のデータを使うことになり、二重にショックでした。子どもの思考を深めるためには、もっと展開を練り上げる必要があったと思います。反省ばかりの授業でした。



東先生、貴重な授業ありがとうございました。